

令和5年(ワ)第24056号 国家賠償等請求事件

原告 (閲覧制限)

被告 国外2名

### 証拠説明書 (3)

令和6年5月9日

東京地方裁判所民事第17部合議1係 御中

原告ら訴訟代理人弁護士 南 出 喜 久 治 代

(主任) 同 弁護士 木 原 功 仁 哉

号証	標 目 (原本・写しの別)		作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨
甲15	写真	写し	令和6年5月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	原告Aが接種後に顔面麻痺が生じてゐること
甲16の1	論文「Doshi P, Pfizer and Moderna's "95% effective" vaccines—we need more details and the raw data. BMJ, Jan 4, 2021. (ドーシー P. 「ファイザーとモデルナの“有効率95%” —我々はさらなる詳細と生データを求めている」BMJ、2021年1月4日)」	写し	令和3年1月4日	Peter Doshi	海外C4591001試験においては、症状疑ひのある3,410人にPCR検査がなされなかつたことを指摘する論文の存在及びその内容。
甲16の2	甲16の1の翻訳対比表(抄訳)	写し	令和6年1月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲16の1に同じ
甲17の1	記事「Thacker PD, Covid-19: Researcher blows the whistle on data integrity issues in Pfizer's vaccine trial. BMJ, Nov 2, 2021. (ポール D サッカー「Covid-19:	写し	令和3年11月2日	Paul D Thacker	海外C4591001試験の受託研究会社における不適切な慣行が明らかになり、データの完全性と規制当局(FDA:アメリカ食品医薬品局)による監視の在り方について

号証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	
	研究者がファイザー社のワクチン試験におけるデータ完全性の問題を内部告発」BMJ、2021年11月2日)」			疑問が生じてゐる事実等	
甲17の2	甲17の1の翻訳対比表(抄訳)	写し	令和6年1月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲17の1に同じ
甲18	文献「木原雅子ほか監訳「WHOの標準疫学〔第2版〕」45～73頁	写し	平成20年3月	三煌社	ランダム化比較試験及びコホート研究の概要等
甲19の1	返信「Skowronski DM, et al., Safety and efficacy of the BNT162b2 mRNA Covid-19 vaccine. N Engl J Med, Feb 17, 2021. (「Danuta M. Skowronski BNT162b2 mRNA Covid-19ワクチンの安全性と有効性」ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン、2021年2月17日)」	写し	令和3年2月17日	Danuta M. Skowronski	ファイザーがFDA(食品医薬品局)に提出された文書を使用して、1回目接種2週間後から2回目の投与前までのワクチンの有効性を算定したところ、下表のとほり、2回目の投与前であつても、ワクチン有効性は92.6%と非常に有効であつたといふのであり、1回目接種で十分な感染予防効果があるのに、それを敢へて低い有効率をもつて評価したのは、ファイザーの意向を容れてゐるとの疑ひが濃厚であること等
甲19の2	甲19の1の翻訳対比表(抄訳)	写し	令和6年1月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲19の1に同じ
甲20の1	論文「Tartof SY, et al., Effectiveness of mRNA BNT162b2 COVID-19 vaccine up to 6 months in a large integrated health system in the USA: a retrospective cohort study. Lancet,	写し	令和3年10月4日	サラ Y. タルトフ	被告ファイザーは、本論文を根拠に、ワクチンの有効性(入院予防効果)が2回目接種後6カ月までの追跡調査で保たれたと主張するが、 ①同研究の資金提供者がフ

号証	標 目 (原本・写しの別)	作成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	
	Oct04, 2021. (タルトフS. Y. ほか「米国の大規模統合医療システムにおけるmRNA BNT162b2 新型コロナウイルス感染症ワクチンの最長6カ月の有効性：後ろ向きコホート研究」(ランセット、2021年10月4日) )			ファイザー自身であり、著者のうち7名は同社従業員であるなど「ファイザー丸抱へ」の論文であること ②同研究では、介入群（接種群）とプラセボ群とで背景因子をランダムに割り付けることができなかったことを著者自身が認めてゐること 等を立証する。	
甲20の2	甲20の1の一部の日本語訳	写し	令和6年1月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲20の1に同じ
甲21の1	論文「Wareham KJ, et al., Sponsorship bias and quality of randomised controlled trials in veterinary medicine. BMC Veterinary Research, 13:234, 2017.」(KJ. ウェアハム「獣医学における無作為化比較試験のスポンサーバイアスと質」BMC獣医学研究, 13:234, 2017.)	写し	平成29年	KJ. ウェアハム	獣医学系論文410編を調査したところ、製薬系からの資金提供を受けた論文の56.9%で、試験の対象となった医薬品に肯定的な結論が出てをり、非製薬系の資金提供を受けた論文の29.1%よりも有意に高いとの結果が得られたこと等
甲21の2	甲21の1の翻訳対比表（抄訳）	写し	令和6年1月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲21の1に同じ
甲22の1	英国保健安全庁（UKHSA）のブログ「Ramsay M, Transparency and data - UKHSA's vaccines report. UK Health Security Agency, Nov 2, 2021. (マリー・ラムセイ 「透明性とデータ - UKHSAのワクチン報告書」)」	写し	令和3年11月2日	マリー・ラムセイ	仮に接種者の方が非接種者よりも感染率が高いといふデータが存在しても、それに対する様々な「言ひ訳」ができ、後ろ向きコホート研究では両群をランダムに割り付けることが不可能であること原因であるから、

号証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	
				エビデンスレベルは乏しいこと等	
甲22の2	甲22の1の翻訳対比表（抄訳）	写し	令和6年1月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲22の1に同じ
甲23の1	論文「Chemaitelly H, et al., Waning of BNT162b2 Vaccine Protection against SARS-CoV-2 Infection in Qatar, N Engl J Med, Dec 21, 2021. (シュマイテリー H. ほか「カタールにおける SARS-CoV-2感染に対する BNT162b2ワクチンの予防効果の低下」ニュー・イングランド・ジャーナル・オブ・メデイスン、2021年12月21日)」	写し	令和3年12月21日	シュマイテリー H. ほか	同論文では、2回接種後の重症化予防効果が6か月間継続したと主張するが、一般化可能性が乏しく、エビデンスレベルが低いこと等
甲23の2	甲23の1の翻訳対比表（抄訳）	写し	令和6年1月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲23の1に同じ
甲24	人口ピラミッド（カタール・令和3年）	写し	令和5年12月29日	population-pyramid.net	Chemaitelly論文が発表された令和3年当時のカタール国の高齢者（65歳以上）の割合は1.56%に過ぎないこと
甲25の1	論文「Haas EJ, Infections and COVID-19 cases, hospitalisations, and deaths following a nationwide vaccination campaign in Israel: an observational study using national surveillance data. Lancet, May 5, 2021. (ハース E. J. ほか「イスラエルでの全国的なワクチン接種キャン	写し	令和3年5月5日	シュマイテリー H. ほか	同論文は、ファイザー社製ワクチンを2回接種した人の重症化予防効果が90%であつたといふものであるが、後ろ向きコホート研究としてエビデンスレベルが乏しいものであること等

号証	標 目 (原本・写しの別)		作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨
	ペーン後のSARS-CoV-2感染症 および新型コロナウイルス感 染症の症例、入院、死亡に対 するmRNA BNT162b2ワクチン の影響と有効性：国家監視デ ータを使用した観察研究」、 ランセット、2021年5月5日)」				
甲25の2	甲25の1の翻訳対比表（抄訳）	写し	令和6年1 月	原告ら訴 訟代理人 弁護士木 原功仁哉	甲25の1に同じ
甲26	日経バイオテックHP「100日ミッ ションの実現に立ちはだかる カルタヘナ法」	写し	令和5年2 月21日	久保田文	本件ワクチンの製造にあた つて、遺伝子組換え実験（第 二種使用等）にあたりカル タヘナ法の適用があること からすれば、それによつて 製造された医薬品を輸入し 使用することは第一種使用 等にあたることは当然のこ とであること
甲27の1	記事「E Cott, et al, How Pfizer Makes Its Covid-19 Vaccine. The New York Times. April 28, 2021」（表 題の和訳：ファイザーはど のようにCovid-19ワクチンを作 ったのか）	写し	令和3年4 月28日	E Cott	本件ワクチンの製造過程
甲27の2	甲27の1の日本語訳	写し	令和3年	水浄化フ ォーラム	甲27の1に同じ
甲28の1	記事「One dose of Pfizer's COVID-19 vaccine contains over 200 billion DNA fragments that can incorporate into human DNA, causing cancer」（NATURAL NEWS）（表題の和訳：ファイ ザーのCOVID-19ワクチンの1 回の接種には、人間のDNAに取	写し	令和6年4 月1日	ランス・ D・ジョン ソン	がんゲノミクス専門家であ るバックホールツ博士がサ ウスカロライナ州医学委員 会において、 (i) ファイザーワクチンの 一つの容器の中に、 200billionのプラスミド DNAの断片が混入されてみ る。

号証	標 目 (原本・写しの別)		作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨
	り込まれて癌を引き起こす可能性のある2000億以上のDNA断片が含まれています)				(ii) これらの断片からすべての可能な配列のDNAが生成されうる の二点を報告したこと等
甲28の2	甲28の1の翻訳対比表 (抄訳)	写し	令和6年5月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲28の1に同じ
甲29の1	論文「Saputra PBT, et al., Myocarditis and coronavirus disease 2019 vaccination: A systematic review and meta-summary of cases, Biomol Biomed. 2023 Aug 1; 23(4): 546-567」 (表題の和訳: 心筋炎と新型コロナウイルスワクチン接種: 症例のシステムティックレビューとメタサマリー)	写し	令和5年8月1日	Saputra PBTほか	初回投与後の心筋炎 (ケース群) と2回目又は3回目投与後の心筋炎 (コントロール群) とでオッズ比を取ったところ、5.74が算定され、感染歴と初回投与後の心筋炎発症とが有意に関連してゐると結論付けられたこと等
甲29の2	甲29の1の翻訳対比表 (抄訳)	写し	令和6年5月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲29の1に同じ
甲30の1	論文「Bergamaschi C, et al., Systemic IL-15, IFN- $\gamma$ , and IP-10/CXCL10 signature associated with effective immune response to SARS-CoV-2 in BNT162b2 mRNA vaccine recipients. Cell Reports. 36(6) p. 109504.」 (表題の和訳: BNT162b2 mRNA ワクチン接種者における SARS-CoV-2 に対する有効な免疫応答に関連する全身性 IL-15、IFN- $\gamma$ および IP-10/CXCL10 シグネチャー)	写し	令和3年8月10日	Bergamaschi Cほか	既存のCoV-2免疫を持つてゐる既感染者は、1回目のワクチン接種により、IFN- $\gamma$ 、IP-10/CXCL10、TNF- $\alpha$ 、IL-6 がより強く上昇し、2日目には、高レベルのIFN- $\gamma$ 及び IP-10/CXCL10 が検出され、これは未感染者における2回目のワクチン接種1日後のレベルに匹敵し、TNF- $\alpha$ と IL-6 の大幅な増加は、COVID-19 免疫がある既感染者では、1回目のワクチン接種後に認められたこと等

号証	標 目 (原本・写しの別)	作成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	
甲30の2	甲30の1の翻訳対比表 (抄訳)	写し	令和6年5月	原告ら訴訟代理人 木原功仁 哉	甲30の1に同じ
甲31	アレクサンドラ・アンリオン＝コード著・鳥取絹子訳「コロナワクチンその不都合な真実」(詩想社・令和5年)	原本	令和5年	アレクサンドラ・アンリオン＝コード	本件ワクチンの危険性、無効性及びワクチン利権の構造等を明らかにした著作論文の存在とその内容
甲32の1	プレプリント (査読前論文)「Tanaka and Miyazawa Unnaturalness in the evolution process of SARS CoV-2」	写し	令和5年8月5日	宮澤孝幸 (京都大学准教授) 及び田中淳 (大阪医科大学薬科大学助教授、獣医学者)	オミクロン株が人工ウイルスであること
甲32の2	翻訳対比表	写し	令和6年3月	原告ら訴訟代理人 南出喜久治	甲32の1について、英文とAI機械翻訳 (コンピュータを利用して全て自動的に行ふ翻訳) した日本語を対比して記載した一覧表。 なほ、同論文のセクションである、 ・Abstract (論文の要旨) ・Introduction (序論) ・Results (結果) ・Discussion (考察) ・methods (方法) ・reference (参考文献) のうち、Abstract (論文の要旨)、Results (結果)、Discussion (考察) について抜粋し英文と機械翻訳文を対比表にまとめたものである。
甲33の1	論文「T. Awaya, et al., What Should We Do after the COVID-19 Vaccination?	写し	令和4年5月	栗屋徹ほか	本件ワクチン接種後の副作用とその機序

号証	標 目 (原本・写しの別)		作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨
	Vaccine-Associated Diseases and Precautionary Measures against Adverse Reactions. Vaccines 2022, 10(6), 866;」(表題の和訳: COVID-19ワクチン接種後に注意すべきことは ワクチン関連疾患と副反応の予防策について)				
甲33の2	甲33の1の日本語訳	写し	令和4年5月	栗屋徹ほか	甲33の1に同じ
甲34の1	論文「Ndeupen S, et al., The mRNA-LNP platform's lipid nanoparticle component used in preclinical vaccine studies is highly inflammatory. iScience 2021, 24, 103479.」(表題の和訳: ワクチンの前臨床試験で使用されるmRNA-LNPのプラットフォームである脂質ナノ粒子は炎症性が高い)	写し	令和3年11月20日	Ndeupen Sほか	本件ワクチンに含まれるLNPが、IL-6、IL-1 $\beta$ などの炎症性サイトカインを放出する原因となつてをり、それによつて心臓を含む全身の炎症を引き起こすといふこと等
甲34の2	甲34の1の翻訳対比表(抄訳)	写し	令和6年5月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲34の1に同じ
甲35の1	論文「Kimura A, et al., IL-6: Regulator of Treg/Th17 balance. Eur J Immunol, 2010. 40(7): p. 1830 5. (表題の和訳: IL-6: Treg/Th17 バランスの制御因子)	写し	平成22年6月25日	木村彰宏ほか	Th17細胞とTreg細胞のバランスが「免疫反応のアクセラとブレーキ」の役割を果たし、IL-6の存在は、炎症効果をもたらすTh17を誘導させ、逆にTregを抑へ込む作用を果たすこと等
甲35の2	甲35の1の翻訳対比表(抄訳)	写し	令和6年5月	原告ら訴訟代理人 弁護士木原功仁哉	甲35の1に同じ